

日本共産党 道議会議員

# 真下 紀子

困難のりこえ、ともに生きる

はつらつ道政レポートNO.393 2025.2.16

発行 真下紀子事務所



## くらし支える直接支援を

日本共産党道議団は27日、2025年度予算編成・道政執行への要望書を鈴木直道知事に手渡し、物価高騰などから道民生活と道内産業を守る政策を求めました。

▽物価高騰からくらしを守る直接支援、▽道営住宅の家賃の引き上げ撤回、▽半導体企業・ラピダスへの専門家・労働者の一極集中対策、▽公定価格に物価高騰等の影響が反映されず賃金引上げが進まない介護・保育等の分野等の賃金引上げをなど、10分野104項目を要望しました。

道の宿泊税をめぐる、業界団体が総務省に適切でないと要望書を出したことから、十分な意見交換と課題の慎重な検討を求めました。知事は近日中に話し合いを持つと表明しました。



2025年度予算について知事に要望

## 知事「今後、すべての部で購入しない」「部課長会」パー券購入問題



知事に直接回答を求める真下議員

道庁幹部職員で構成する親睦会「部課長会」が、会員の同意なく特定の国会議員から政治資金パーティー券を購入していた問題で、共産党道議団の調査要請を拒否していた鈴木知事は、「今後、すべての部課長会で購入しないと聞いている」と予算要望の席で表明しました。  
知事はあくまで私費による親睦会のため、調査しないことは妥当との立場を強調し一度は回答をスルーしました。しかし、真下議員が予算執行上の通達をもとに要望していると指摘して再度回答を求めると、「総務部課長会では購入していたと報告を受けた。今後はすべての会で購入しないと聞いている」と表明せざるを得ませんでした。

交通権は人権とのべ、議会のとりにくみを紹介。利用者の声を聞いてほしい、住み慣れた地域で暮らせるようみんなで見守りたいと感想が寄せられました。

## 私たちのバス路線 減便で通勤できず転居も 住み続けるために必要

市民から「減便のため通勤できずに引越した」「旭川駅からの最終便は平日12時10分、これでは複数の診療科を受診できず、帰ってもこれがない」「近くの整骨院に通う乗換バスを待つ場所がなくて、一度旭川駅まで行き、別の路線に乗換えて戻ってくる」など、地域の切実な交通事情が相次いで出されました。



バスの減便が相次ぐ中、東鷹栖地域で「私たちのバス路線くみんなでしゃべろう会」が開催され、真下紀子道議、能登谷繁市議が参加し、道議会のとりにくみを報告しました。

# 北方領土に核ごみ「魅力的」発言に抗議を



核のごみ最終処分場の選定をめぐり23日に、国とNUMOが都内で開催した「高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会」の席上で、会場から「ロシアの分も含めて北方四島に最終処分場を造ることを条件に島を返還してもらってはどうか」と意見が出され、経産省幹部がそれに対して「実現するのであれば魅力的な提案だ」と発言。NUMO幹部も「実現するのであれば一石三鳥四鳥」などと応じたことが大問題となり、3日の衆議院予算委員会で石破首相が謝罪するに至りました。

真下議員は5日、北方領土対策特別委員会で「不見識極まりない。看過できない問題」と批判。「北方領土は北海道の行政区であり、条例に反する見解は自治権を侵害する」と抗議。道に対し、明確な抗議と正しい理解の普及、2月7日の北方領土の日に道として正式見解を出すよう求めました。

北方領土対策本部は、「特定放射性廃棄物処理場を持ち込ませない担保措置として、道内に処分場を受け入れる意思がないとの考えで制定された条例がある」と明確に答弁。29日に知事から「この度の発言は最終処分



も受け、受験シーズンに加え、新入学や夏休み時期も啓発実施と注意喚起、被害防止に取り組んでいます。

## 受験日盗撮・痴漢被害ゼロに

盗撮・痴漢が被害者の心身に大きな影響を与え、尊厳を著しく傷つける卑劣な犯罪、決して許される行為ではありません。真下議員は2022年に受験日を狙った盗撮・痴漢撲滅の対策強化を求めて質問。4日の環境生活委員会では、「2022年度以降の大学入試共通テストと道立高校入学選抜の受験日は、受験生が被害者となる事案は確認されていない」ことを明らかにしました。今年度は、利用が多いJR駅や地下鉄駅で、警察、鉄道事業者に加えて学生ボランティアの協力も受け、受験シーズンに加え、新入学や夏休み時期も啓発実施と注意喚起、被害防止に取り組んでいます。

場を造ることを肯定していると誤解されることから大変遺憾」と申し入れ、国とNUMOに丁寧な説明を求めたと答弁しました。

真下議員は、「戦後80年となる今もふるさとに帰りたい、ふるさとを取り戻したいと元島民の方々は島の返還を願ってやまない。素晴らしい自然と海洋資源に恵まれた島に、核のごみ最終処分場建設を提案され、『魅力的』『一石三鳥四鳥』などと応じたことに国やNUMOの認識が表れている。元島民から

## 無加温ハウスで野菜栽培

### 冬場の農家収入、ゼロカーボンで



厳冬の旭川でも暖房を使わずに野菜を栽培できる「無加温ハウス」に上川農業試験場が長年取り組み、ケールと寒ぢみほうれん草が市場に出始めました。化石燃料を減らし冬に野菜を生産、農家の冬期収入につながる」と期待されていました。

長年注目してきた真下議員は30日、道議団として旭川市米原で栽培にとりくむ2軒の生産者を訪ね、栽培の工夫や課題等をお聞きしてきました。

は「断固抗議する」という声も出ており、北方領土対策本部は怒りをもって受け止めるべき。墓参もままならないような膠着状態となっている返還交渉の現状にどんな思いでいるのか「全く理解がない」とのべ、北海道が強く抗議しなかつたのかと迫りました。

北方領土は北海道の行政区であり、道は特定放射性廃棄物最終処分場建設の意思はないと、北方領土の日に北海道として正式に表明するよう提案しました。

道議会・道政へのご意見・ご要望をお寄せください

真下紀子事務所 旭川市3条16丁目左7号 TEL 0166-20-0808 FAX 0166-20-1616 m.noriko.office@gmail.com

